

どう守る！

西条市の水資源

(無会派)

問

加茂川の瀬切れの現状や市民一丸となって「水の都西条」を守っていくための取り組みを問う。

答

昭和53年以降で、加茂川の表流水の到達点が、河口まで到達していない日数が200日を超えた年は3年あり、いずれも直近5年以内に集中している。

近年は、恒常的な渇水の発生や地下水の塩水化などの影響が見られており、現在、各家庭における地下水の使用状況や水質、農業用水などの実態を調査中で、これらにより水収支を明らかにしていきたい。



八堂山から見た加茂川

また、市の貴重な資源である地下水を保全していくために、

本年9月に開催予定の地下水シンポジウムなどを通じて、地下水調査結果や水需要に関する情報を提供するとともに、市民の参画を得て、水の利活用のためのルールづくりに取り組みたい。

どう取り組み？

健全な児童・生徒の育成

(自民クラブ)

問

現在は、それほど中学生が荒れているとは感じないが、この数年の成人式の様子などから、家庭や地域において心豊かな人間を育てることが大切であると思う。

市内の中学校の現状を問う。

答

現在、市内には中学校10校、3千246名の生徒がいる。

全国的に見ても児童・生徒を取り巻く環境は悪化しており、それに伴う非行の低年齢化や凶悪事件の発生など課題も多い。

本市では学級崩壊の事例はないが、指導に配慮を要する生徒がいることも事実で、各校では全教職員が一丸となって生徒の指導に当たるなど相談環境の整

備を図り、問題の早期発見、早期解決に努めている。また、講演を通じて家庭教育の充実も図っており、今後も学校や家庭、

地域が一体となり、心身ともに健全な生徒の育成を目指したい。

具体的な林業政策は？

(市民クラブ)

問

本市は、産業としての林業への取り組みをどのようになっているのか、また、リーフォラム開催の総括をどうとらえ、今後の行政に生かしていくのか。

答

林業は、植林から出荷できるまでに50年以上の期間を要する施業であるが、木材は再生可能な循環資源である。

この再生可能な資源の人工林は、現在有効に活用できる時期となっていることから、今回開催した「木のまち・木のいえりリーフォラム in 西条」において、四国は一つ、材木資源情報の集中と発信についての講演をいただいたところである。これを契機に、地元産材を市外の消費地に対して、積極的に

PR活動を実施するとともに、この圏域の木材の販路拡大に努めていきたい。

また、市内の消費者等に対しては、西条地産地消の家づくり協議会を中心に、地元産材の良さをPRしていきたい。

公費助成の考えは？

ヒブワクチン接種費用

(公明党西条市議団)

問

細菌性髄膜炎の原因菌であるヒブ菌の感染予防に効果のあるヒブワクチンは、4回の接種で、約3万円という高額な費用がかかるため、公費で助成する考えはないのか。

答

平成22年2月に厚生労働省の厚生科学審議会感染症分科会予防接種部会において、予防接種制度の見直しについての第1次提言がとりまとめられた。それによると、国の予防接種法の対象となっていないヒブワクチンなどの評価や位置付けについて、さらに論議が必要であり、今後検討が行われる予定とのことである。このことから、国の動向も注視しながら対応を検討していきたい。

どう進める？ 食品加工

流通コンビニナート構想

(市民クラブ)

問

農工商連携の下、食料産業の集積を図る「食品加工流通コンビニナート構想」の進み具合はどうか。

答

平成17年に内閣府より地域再生計画「食品加工流通コンビニナート構想」の認定を受け、MH冷水製造システムを使ったいちごの周年栽培や閉鎖循環型陸上養殖に関する研究を行うなど、農水産品の新たな供給システム構築に向けた取り組みを継続して行っている。

現在は、今日までの研究成果を踏まえ、MH冷水を活用した食料増産について市民に向けて幅広くPRするため、植物工場モデルプラントを設置するなど、地域企業や農業生産者の利益につながる技術開発を重視している。

また、農水産品の競争力の強化を図るため、食の創造館を拠点として、今後とも地域一体型の農工商連携について、地域力を発揮した新たな可能性を追究していきたい。